

学習支援ソフト導入に係る仕様書

1. 目的

本仕様書は、八尾市立学校における児童生徒の学力向上、個別最適な学びの実現、および教職員の指導業務の効率化を図るため、1人1台端末で活用する学習支援ソフトの導入に関する必要な事項を定めるものである。

2. 利用環境

(1) 導入ソフトの基本方針

本件にて導入するソフトの基本方針は、以下のとおりである。これらの方針をふまえたソフトを提案すること。

- ① 学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現につながることを。
- ② 児童生徒の個別の学習経過が把握しやすいなど、教員の負担軽減及びきめ細やかな指導につながることを。
- ③ GIGA スクール構想の概要をふまえ、クラウド基盤で稼働すること。
- ④ 本市の学力向上の取組みである「指導と評価の一体化」「言語活動の充実」「情報活用能力の育成」につながることを。

(2) 利用者（令和8年5月1日時点）

- 児童生徒数：18,063人
- 教職員数：1,415人
(教育委員会事務局教職員33人を含む)

【参考】端末について

- 児童生徒：Lenovo 300w Yoga Gen 4
- 教職員：ASUS ExpertBook BM1503CDA
dynabook S73/HU
- 主なブラウザはMicrosoft Edgeを使用

(3) 利用場所

- ① 八尾市立学校 計42校
内訳：小学校27校、中学校14校、義務教育学校1校
- ② 各家庭（端末持ち帰り時の家庭学習の場合）
- ③ 八尾市教育委員会

(4) 利用期間

令和9年2月1日から令和14年3月31日まで（62ヶ月間）

(5) 利用環境

- Microsoft Edgeに対応していること。
- クラウドサービスによる提供かつ、使用する端末へのインストール作業や個別のネットワーク設定が不要であること。
- ソフト使用にあたり、フィルタリングサービスにおける除外リスト登録等による設定変更は可とするが、その他本市におけるフィルタリングの構成の変更を必要とする提案は不可とする。

3. サービス提供形態および基本要件

(1) 提供形態

インターネットを介したクラウド型サービス（SaaS）であること。

(2) 動作環境

- ① 児童生徒および教職員に配備済みの端末等（Windows、ChromeOS、iPadOS）の標準ブラウザで動作し、専用アプリのインストールを必須とせずに全機能が利用できること。
- ② 1 端末あたり 1 Mbps 程度の低帯域環境下においても、円滑に動作するように配慮されていること。

(3) アカウント認証

Microsoft アカウントからのシングルサインオン（SSO）によるログインが可能であること。

(4) セキュリティ

- ① 政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）登録済み、または ISO27001、ISO27017、プライバシーマーク等の情報セキュリティ認証を取得した環境で運用されていること。
- ② 万全なバックアップ体制を有すること。

4. 収録教材・コンテンツに関する仕様

(1) 対象学年・教科

- ① 小学校および義務教育学校前期課程（○：必須教科）

学年	国語	算数	理科	社会	外国語
1 年	○	○	－	－	－
2 年	○	○	－	－	－
3 年	○	○	○	○	－
4 年	○	○	○	○	－
5 年	○	○	○	○	○
6 年	○	○	○	○	○

- ② 中学校および義務教育学校後期課程（1～3 年 / 7～9 年）：国語、数学、理科、社会、英語

(2) 教科書準拠

- ① 本市で採択されている教科書の単元構成および進度に対応した学習が可能であること。
- ② 学習指導要領に基づき、基礎・基本から活用力、思考力を問う問題まで幅広く収録されていること。

(3) 問題数

全学年・全教科を合わせて、少なくとも 50,000 問以上の良質な問題を収録していること。

(4) コンテンツの更新

学習指導要領の改訂や教科書の変更、社会情勢の変化に合わせ、契約期間中、無償でコンテンツの更新・追加が行われること。

(5) 多様な解答形式

選択式、記述式（キーボード入力）、手書き文字認識、リスニング、作図等、各教科の特性に応じた解答形式を備えていること。

5. 児童生徒向け機能（個別最適な学び）

(1) AI による個別最適化

- ① 児童生徒の学習履歴や正誤情報を分析し、個々の習熟度に応じた問題を自動で提示・推薦する機能を備えていること。
- ② つまずきの原因となった既習単元や前学年の内容へ自動で戻る「さかのぼり学習」が可能であること。

(2) 自動採点・即時フィードバック

解答後、即座に自動採点が行われ、児童生徒が自学自習できるよう図解や動画等を用いた分かりやすい解説が表示されること。

(3) アクセシビリティへの配慮

- ① ユニバーサルデザイン（UD）フォント、またはそれに準ずる視認性の高いフォントを採用していること。
- ② 児童生徒の特性に合わせ、表示内容を個別に調整できる機能を有すること。

(4) モチベーション維持

- ① 学習の進捗状況を視覚的に把握できる機能（ダッシュボード等）を有すること。
- ② 児童生徒が主体的に取り組めるよう、ゲーミフィケーション要素（ポイントや称号等）や、振り返り機能を備えていること。

6. 教職員・管理者向け機能（運用支援）

(1) 学習状況のリアルタイム把握

児童生徒の取り組み状況（正答率、進捗、解答内容等）を、クラス単位および個人単位でリアルタイムに確認・分析できる管理画面を有すること。

(2) 課題配信機能

授業のねらいに合わせ、特定の単元や問題を範囲指定し、クラス全体や特定のグループ、個々の児童生徒へ柔軟に配信できること。

(3) 指導用素材の提供

授業で活用できる指導案や、ワークシート、プリント作成用の素材データ等が搭載されている、あるいは提供することが可能であること。

(4) データ引継ぎ

市内での転出入や小学校から中学校への進学時において、学習履歴やアカウント情報を継続して管理できる仕組みを有すること。

(5) 教育委員会管理機能

市全体の活用状況（ログイン数、活用率等）を統計的に把握・出力できる管理機能を有すること。

7. 運用保守・サポート体制

(1) 導入・活用支援

教職員向けの操作研修会（オンライン含む）の実施、および活用事例集やマニュアルを提供すること。

(2) ヘルプデスク

教職員および管理者からの問い合わせに対応する専用のサポート窓口（電話・メール等）を設置すること。

(3) 家庭学習への対応

本市が児童生徒に対して配備している 1 人 1 台端末を用いて、家庭でも学校と同様に利用できること。また、保護者向けのマニュアルや FAQ 等が整備されていること。

(4) 無償アップデート

必要に応じて、契約期間内における OS のバージョンアップや、教科書改訂・学習指導要領改訂に伴うシステム・データの更新に対応すること。